

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392400075		
法人名	有限会社 ケアシステム・ピュア		
事業所名	グループホーム谷崎		
所在地	熊本県玉名郡南関町相谷1789		
自己評価作成日	平成26年3月9日	評価結果市町村受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が今までの生活により近い状態を保てるよう配慮し、家庭的な環境の下で、主に食事、排泄、入浴等で適切な介護を行います。同時に可能な限りの機能訓練を行い、その人の残存機能を十分に活かした生活を営むことができるよう、お手伝いしております。また、小学校を目の前にして二城山をバックに、豊かな自然に囲まれた立地条件の中、木のぬくもりとたくさんの窓からの日差しを浴びて生活してもらっています。協力医療機関との連携もさらに強化され、訪問歯科による予防・治療も4月から開始しました。運営推進員の方々、地域の皆様との交流も深まり、さらに地域の一員、地域の施設として貢献することができるよう、日々考え努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目のホームでは、認知症の進行や重度化(介護度4の方が中心)、若年性認知症等の現状に職員個々が寄り添い、本人本位の自由な中にも時には規律もある生活も支援している。昨年度の外部評価結果を真摯に受け止め改善に向けた努力や、職員のケアに対するモチベーションも高く、週毎のカンファレンスにより日々変わる入居者のリズムの共有や、全職員が目標を掲げたスキルアップへの取り組み等大いに評価したい。高齢化する地域性を踏まえた活動(商工会主催の買い物サービスの一員、福祉員として地域の一人暮らしの把握や相談等)や美化活動の日としてホームのみならず公民館掃除等も行い、地域住民も車椅子で参拝する姿を見て参道を整備される等理念である“地域に愛され、親しまれる施設”及び地域の一員としての役目や頼れるホームとしてまい進するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を唱和している。研修会・反省会時に理念の意義を確認しあったり、問題解決の方向性として理念に合っているかなど話し合いや振り返りをして実践に活かしている。	開設時の理念及び基本方針をケア規範として、申し送り時の唱和による意識付けや反省会・研修会等により理念がケアに繋がっているか検討している。また、全職員が自己評価に即した目標を立て、理念を意識した日々の活動に反映させ、理念の一つである目標を持った技術向上に真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者一人一人がつながりを持ち暮らすことは具体的には困難であるが、G、H.としてのつながりを持ち、職員が手分けをしていろいろな作業・奉仕に参加している。区費を払って地域の回覧物や配布物・会合などにも参加している。	地域の高齢化が進む中で、地域高齢者から頼れるホームとして日々奮闘するホームであり、地域住民から親しく声を掛けられ、自治会の会計を担ったり、地域ケアとして二城山道作り・草刈・空き缶広い、公民館掃除等に地域の一員として活動している。また、神社掃除・ホームからのベンチの寄贈や、地域住民も車椅子での参拝に参道を改修して下さる等地域を支え、地域に支えられる関係が築かれている。小学生との昔遊びや中学生の職場体験、地域ボランティアとの交流等にも取り組んでいる。	近くにある小学校との相互交流について、運営推進会議の中での話し合いや協力を依頼し、重度化・高齢化する入居者が今後も地域とつながりながら生活が継続されるよう期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校・中学校との交流、地域の福祉員としての貢献、運営推進会議時、行事の時などに、地域の皆様への認知症についての講話の実践、支援のお願いなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進員の方々の専門分野の勉強会をお願いして実施し、サービスに活かしている。推進員の方々の質問や意見などで問題を深く考え、話し合い、よりよいサービスとなることができている。	役場・地域の総代、ボランティア代表、入居者の後見人である行政書士及び家族代表2名をメンバーとして定期的開催している。ホームの現状や行事、外部評価等の報告をもとにした意見交換や時には教育長による虐待についての講和や“老後の心配を安心に変える知恵と工夫”等の講和等工夫し、テーマを持った意見交換をケアサービスに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には、ケアサービスで困った時に相談をしたり、助けてもらっている。グループホームの希望者の実情や問題点を細かく伝えて電話・訪問などで頻繁に話す機会を持っている。	運営推進会議に役場から毎回の参加を得る等行政との密接な関係が築かれ、議事録提出に向き現状を発信したり、問題があれば役場や地域包括に相談し適切なアドバイスをサービスに反映させている。入居者の住み替えに社協・民生委員・家族との話し合い等も行われている。また、管理者は地域の福祉員として高齢者一人暮らしを支援したり、ホームとしての情報発信源として生かし、男女共同参画の一員としても行政に関わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会・勉強会でのテーマとし、具体的な状況・問題点などを出し合う。玄関は施錠の時間が昨年よりなくなり、職員中心の動きに合わせてもらうような声かけもなすように心がけている。	身体拘束排除宣言を掲げ、南関町介護保険事業所の研修会に参加した管理者は、伝達講習の中で言葉使い「ちょっと待ってください」等も拘束になることを意識し、その人の気持ち考えた声をかけ等具体的な事例を示しながら指導している。入居者は現在落ち着いた生活であり、施錠も無く自由に生活されているが、職員同士声を掛け合い所在や人数確認を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員ともに外部研修などに積極的に参加して学びを深め、小さな変化にも気づき見逃さないように努力をしている。打ち身などを発見した場合は原因を究明して職員間で確認し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員ともに外部研修に参加して事業所全体への報告・指導をしている。特に成年後見人制度については、確実なアドバイスを提供できるよう、大学の講座にも参加して勉強している。現在1名の方の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などに署名・捺印をもらう時に十分説明をし、疑問点などに答えている。家族会にて改定等の立案をし、話し合い理解・納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・推進会時に意見などを求め、その都度答えたり、話し合いの機会を設けている。職員には研修会・勉強会時に家族・推進員などの意見を共有し、改善点・反省点などを考え、よりよい運営につなげている。	管理者は家族とのメールによる情報交換や、「24時間いつでも連絡ください」と携帯電話番号を交わす等密な連絡体制により信頼関係を築き、訪問時等直接要望等が申し出られている。運営推進会議の中で家族の苦情らしき事案を報告したり、年2回の家族会により運営推進会議の報告やホームの現状を報告し、個人面談の中で意見等を聞き取りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回木曜日の夕方5時から1時間程度機会を設けていること、常に代表者とのコミュニケーションを心がけている。時間がなくなるときは電話で話すこともある。	朝・夕の申し送りにより情報を共有し、週毎に話し合う時間を作り全員で意見交換を行い、勤務時間を検討したり、入居者のケアについて話し合いを行っている。また、全員でスキルアップに取り組み、管理者は職員の個人的な相談にも対応する等日々職員とのコミュニケーションに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による給与手当アップ・ボーナス・臨時手当など、個々の努力や勤務状況に応じている。各自仕事の内容で責任を持ってもらい、やりがいを感じてもらおうよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回の研修会時、その他外部研修の参加、いろいろな状況での先輩からのアドバイスや代表者からの指導など、ほぼ毎日行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修、グループホーム協会への入会、勉強会参加などをして、他の職場の見学の中より学んだことを活かしている。また、自分たちのやり方にさらに自信を持って行うことができるようになり、サービス向上への努力を重ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	それまでの生活歴をできる限り集め、職員全体で共有し、本人をよく知る努力をしている。本人がどのようなことが好きか、また嫌がられるかを話し合い、精神的に安定されるような接し方を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かいことでも電話で確認したり、人によってはメールを送って返事を待ったりしている。少しの変化でもなるべく報告して信頼関係を作ることを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは十分なりハビリや外部との交流が足りないと思う方には、在宅サービスを提案してみたり、本人が在宅希望を強くされているときは他のサービスを利用しながら、家族への相談を一緒にしたこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カーテンの開け閉め、食器の下膳、洗濯物たたみなど簡単な作業を一緒にして手伝ってもらって助かっているということを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出、季節の行事などの時、ご家族も参加、支援していただくよう心がけ、家族の絆を大切にしてもらうことをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々電話をしてきてもらうようお願いしたり、行事などに参加してもらう機会を設けている。	入居者は外出するのが難しい状態にはあり、「馴染みの美容室に行きたい」という要望に、出張してもらえないか相談し訪問により継続している。毎日訪問される家族もあるが、親戚や友人等の訪問時にホームの行事(夏祭りやクリスマス会等)にお誘いする等今の現状に最大限の支援を行っている。初詣や趣味の詩吟を披露される入居者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの方はより仲良く、気が合わない方はあまり近くに座られないように気をつけたり、職員が間に入ってワンクッションおいて関係を持ってもらったりして、できるだけ皆平等になるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事のお誘いや季節の挨拶のはがきを送ったりして、関係を大切にしている。退所されても、いつでも声をかけられるようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場合は本人本位に検討したいと思っているが、ご家族の強い希望、その人の周りの環境などの理由で、どうしても本人本位ということを実現できないこともあった。	認知症状の進行により職員の質問に「わからない」との返答が多い入居者に、選択肢を投げかけながら思いを引き出し、発語困難な方にはうなづきや笑顔をバロメーターとし推察している。法人のデイサービスや有料ホームからの入居者であり、もともとの生活歴や思いを把握しており、本人の“らしさ”を大切に全職員で本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集のための努力を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での動き、機能訓練のための体操、歩行訓練、脳体操などの中で対話をしながら把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に職員と計画作成者との会話の中での気づきの報告、経過の報告、週1回の研修会、ミーティング時での話し合いを参考にして作成している。	職員による日々の介護計画実行表のチェックや週毎の会議の中で気づきや観察した事案を話し合い、各目標毎にモニタリング(短期目標6ヶ月毎)を行い、家族の訪問時や家族会時に個別に要望等を聞き取りし修正すべき項目があれば再作成しており、現状に即した個別プランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護実施表に記入し、気づき・工夫などは、申し送り・日報に記入して、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会、町の介護保険課などに相談しながらアドバイスをもらったり、協力を願っている。ボランティアや専門家の方々にも助けられている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社の整備をして安全を確保し、初詣を実施した。利用者のご家族、知人などの訪問により会話を楽しまれる利用者もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は常時行い、簡単な問題、連絡もお互いに話し合っている。	入居者・家族の希望のかかりつけ医としており、入居前からのかかりつけ医を継続されている。個々の主治医から往診が出来る事もホームや入居者にとっての安心となっており、医療面での相談や緊急時も主治医と相談できる体制が取られている。職員は日常のバイタルチェックで異常の早期発見に努め、主治医との連携により専門医等に繋げ適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時は前住診時または前連絡時よりの経過報告を行い、適切な受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医以外、特に多くお世話になる病院の連携室などとの連絡情報交換、情報共有をして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と話し合い、連絡しあいながら方針を共有し、事業所ですることができる範囲で支援をしている。	体調変化時は主治医を交え話し合い、ホームのできる限りの支援に取り組んでいる。家族の意向を踏まえ状況によっては医療機関や訪問看護と連携を図り終末期を支えていく事を入居時に説明している。家族の意向としてはまだ考えられないとの意見も多く、早めの話し合いや方針作成にも継続して取り組んでいく意向である。	重度化や終末期対応の方針作成が検討されており、看取りや看護面の勉強会等職員のメンタル面も含めた研修に取り組んでいかれる事が期待される、
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回の消防訓練、AEDを使っでの訓練、緊急の場合の連絡訓練などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同訓練にも参加し、昼だけでなく夜の想定訓練も行っている。	消防署立会いや自主訓練等年3回の火災避難訓練を実施し、夜間対応マニュアルを作成し連絡網に消防団の協力が得られている。又、土砂災害を想定した地域の防災訓練に参加し併設施設が避難場所とされる等地域との相互協力体制が図られている。AEDが設置され使用方法の確認やチェックを行い、スプリンクラーの設置が検討されている。	ホーム周りの確認等チェックリストを作成し日々の意識付けとされることを期待したい。また、非常時の備蓄について必要な物をリストアップする等全員で有事に備えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴、人格を知ることを努力し、丁寧な言葉遣いとそれぞれに適切な対応をすることを心がけている。	会議の中で接遇マナーについて話し合う機会を持ち、職員は一人ひとりを知る事で、その方に合わせ人格を損ねない対応に努めている。親しみを込めた自然体での対応が馴れ合いとならないように、管理者は言葉遣い等が気になる時は注意を促している。	高い天井等で音の響く環境であり、職員の声のトーンや入居者への話しかけについては注意喚起されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護度の高い利用者の希望を見いだすことは難しいので、二者択一かイエス・ノーの答えにて自己決定と希望を表してもらうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低の規則正しい生活を保ちつつご本人の過ごされたいスタイル、好みの場所などを検討し、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に同行したり、定期的に美容師に来てもらっている。気に入っている服はボタンを付けたリ、繕い物などをして大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたいもの、好きなものを探り出すように努力し、なるべく好みのもので季節のものを提供するようにしている。	入居者の好みを取り入れ栄養士が献立を作成し、その日に応じてメニューを変更しながら調理担当者による食事を提供している。入居者が食事作りに関わる事は少なくなってきており、餅つきなどの行事を一緒に行っている。個々に合わせて刻み食等で提供し、職員も入居者の隣に座り介助や声かけをしながら食の進み具合を見守っている。	業務日誌にメニューの感想等を記入するようにしているが、職員が検食をし入居者と同じ食事を摂る事でより身近な意見となると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつを一日二回して十分な水分摂取を実施している。それぞれにあった量や食形態を検討して毎回全量摂取されるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1～2回の歯科衛生士による検診及び診療の必要な方には訪問歯科による対応をしている。毎日食前・食後3回口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレで排泄され、その方のパターンに合わせて声かけし、失敗のないよう支援している。	排泄チェックでパターンを把握し時間や様子を察し昼間は全員をトイレに誘導している。職員は常に個々の排泄状況への気付きを持ちながら、下着の検討や声かけを工夫し失敗のない排泄に努めている。家族の意向により就寝前のトイレ誘導がポータブル使用を減らしたり、夜間使用するポータブルは洗浄消毒し昼間は別場所で保管している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬のコントロールは医者との相談の元に行い、午後のおやつにはサツマイモを使ったものなどを多く提供したり、水分を十分にとられるようにし、毎日の運動を促し、定まった時間にしばらくトイレに座って様子を見られるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は午後1:00~3:00頃と決まっているが、基本的に1日おき、本人の体調と希望によりその都度決めている。	入浴前のバイタルチェックにより入浴可否を見極め、体調や希望により支援している。家庭的な浴室で個浴のゆっくりとした入浴であり、拒否に対しては対応を工夫し清潔保持に努めている。入浴剤やゆず・しょうぶ湯等を取り入れたり、温泉の足湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜によく眠れるように、日中はなるべく刺激的に生活されるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医などに直接預かり1日分の薬を看護師が個別に朝・昼・夕・寝る前に準備して間違いのないよう、その都度確認をして飲まれる直前に渡すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑誌やテレビが好きな方にはなるべく自由にさせていただき、お酒も家族・本人の希望があれば1杯は飲むことができる。詩吟、歌が好きな方には行事の時などに発表していただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援の元、または行事の一環として外出している。行事の時はデイサービスへ出かけることもある。	併設ディサービスでの行事には散歩がてらに出掛けたり、ドライブや買い物・花見等を外出行事として支援している。又、入居者の慣れ親しんだ神社への初詣や、家族の協力により毎月散髪に出かける方や帰省・花見等家族の協力も得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持たれることで精神安定される方にはもってもらっている。または、管理者に預けられる。ただし、2～3,000円までとお願いしている。買い物に行ったら自らのお金を出して買われる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は困難であるが、電話はお手伝いによって実行されるときもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るすぎないものにして、室温は一定に保つ努力をしている。懐かしい音楽などを流して喜んで頂いたり、日めくりカレンダーで見やすく掲示している。	中庭を囲む回廊式の廊下やウッドデッキで明るく開放的なリビングからは周りの自然や庭の花畑が臨まれ、ホーム内の飾り付けと共に季節感に溢れている。入居者の日常の写真を掲示し、リビングのソファを自分の居場所とされる方もおられる。洗面台の上の棚作りに家族が協力したり、職員は毎月10日を美化活動の日としホーム内外の環境整備に取り組み、温湿度管理の徹底により居心地良い共用空間が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを離れたところに設置したりソファを多く置き、それぞれのお気に入り場所を確保されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使われていたタンスや小物を持ってきて頂いたり、ご家族とご本人の話し合いで居室を使われている。	家族と相談して使い慣れたタンスや時計・ぬいぐるみ等が置かれた部屋や物を置かない部屋等入居者の状態や安全性を考慮した部屋となっている。又、昼間はベッドのマットレスも片づける等環境に配慮しながら日中は出来るだけリビングでの生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでドアも力がなくても開閉ができるようにしている。		